

緑のセンターだより

NO.95 平成19年2月1日発行

発行元：（財）札幌市公園緑化協会
豊平公園緑のセンター

ゴムノキ

別名インドゴムノキ

クワ科 *Ficus* 属(イチジク属)

観葉植物でおなじみのゴムノキ(*F. elastica*)は別名インドゴムノキとも呼ばれ、インド、ビルマからマレー半島の熱帯降雨林中に原産し、高さ20~30m、時には50mに達する常緑の大高木で、幹からは多数の気根を生じ、後にはこれが地面に達して支柱根になります。この姿は、とても鉢植えのゴムノキからは想像できません。日本に限らず、世界中で鉢植えにしてゴムノキと呼んで室内を飾るのは、ゴムノキの園芸種です。本種は、温室内栽培では開花結実することはまれなので、交配して実生による品種改良はあまり行われず、枝変りの中から観賞価値の高いものを選んでいますが、観賞上の主眼点は葉と若葉を包んでいる托葉にあります。この托葉は紅色で、緑の葉との対照が美しいのですが、若葉の展開とともに落ちてしまいます。良く出回っている品種に次のようなものがあります。



[デコラ] 広楕円形の大きな葉をつけ、葉柄が太く垂れない。托葉は赤色で美しい。斑入りの品種もあります。

[アポロ] デコラの枝変わりで、葉縁は波状になり、葉脈間は凹凸が多い。節間は短い。

[ロブスター] デコラの枝変わりで、葉がより大きく、下葉は下垂しにくい。生育旺盛で繁殖は容易である。

[アサヒ] デコラトリカラーの枝変りで、主として葉縁に黄白色の斑が入る。厚い革質で光沢があり、生育旺盛、低温に強い。

[クライギー] アメリカで育成された品種で、葉柄が太くて短いため葉が下垂しにくく、樹形がよい。生育は旺盛だが、寒さに少し弱い。

[デシェリ] 細長い葉に白ないし黄色の斑が不規則に入り美しい品種だが、節間が伸び易い。

ゴムノキの幹に傷をつけると乳液が出来ます。これを固めたものが生ゴムです。初め用途が無かったのですが、硫黄を加えることによって弾性と強度が増し、物をこすると汚れが取れます。英語でゴムを rubber (こするもの) というのはこれからきたもので、ゴム利用の第1号は消しゴムです。種小名のエラスチカは「弾力のある」の意味です。しかし、この *Ficus* 属のゴムは質が悪く非実用的で、工業用のゴムを採取するのはブラジル原産のトウダイグサ科のパラゴムノキです。

フィカス属は世界に800種とも2000種ともいわれ、多くは熱帯性植物ですが、温帯にもあり、半耐寒の種もあります。また、常緑・落葉性の高木または気根を出す種もあります。花は隠頭花序で、いわゆる無花果(イチジク果)を形成し、属名はイチジクを意味するラテン古名によります。

ゴムノキの仲間には、次のようなものがあります。

インドボダイジュ(*F. religiosa*)、フィカス・ベンジャミナ(*F. benjamina*)、ガジュマル(*F. retusa*)、カシワバゴムノキ(*F. lyrata*)、コバンボダイジュ(*F. derutoidea*)、オオイタビ(*F. pumila*)などこれらの種類も観葉植物としてよく利用されています。

管理は、直射光を好みますが、耐陰性が高いので、年間を通して室内で楽しめます。光線不足になると葉の縁が裏側に巻き込むので、できるだけ光線の当たる場所に置きます。緑葉種は低温に比較的強いですが、斑入り種は低温に弱く、15℃以上が望ましいです。

殖やし方は、取り木(環状はく皮、舌状はく皮)、挿し木(天挿し、管挿し)法があります。

用土は排水のよい、肥料分に富んだ土がよいでしょう。(T.T.)

2月園芸作業

このコーナーの園芸作業は札幌地方での目安です。ここに掲載した以外の作業もたくさんありますので、ご不明の点などは緑の相談までお気軽にお問い合わせください。

緑の相談受付 10:00~12:00、13:00~16:00

☆豊平公園 811-9370 月曜以外毎日
☆百合が原 772-3511 水・木・土・日
☆平岡樹芸センター 883-2891 冬期閉園中

◆アザレアの冬期の管理

置き場所

夜間5~6°C以下にならぬ、日中も25°C以上にならないよう調節できるような、明るい窓際に置きます。高温がちのところでは開花は早まり、開花期間は短くなります。低温がちのところでは開花は遅くなりますが長く咲いています。室温の変動が大きいと花の咲く前から新芽が伸びて開花が不順不揃いになりますので随時つみ取るようにします。

水やり

アザレアは他の花木より水を要しますので常に鉢の表面が乾きはじめる前に味の時には葉水も与えます。但し開花期間中の花弁への散水は灰色カビ病の原因

花がら摘み

開花期間が長いので盛りの過ぎた花から順次花がらを摘み取ります。

この場合花弁のみを取るのではなく、子房の付け根から摘むようにします。後述の元葉切りと兼ねると作業が効率的です。

花後の剪定（元葉切り）

花が7~8割咲き終わったら、枝が短く揃っているものは元葉切りし（花のすぐ下の葉が混み合っているところも一緒に切り取る）、枝の伸長が旺盛で伸び方の不揃いな場合、長い枝は切りつめ短い枝は元葉切りします。

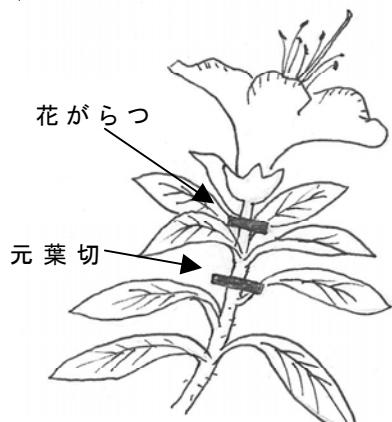
同時に混んでいる枝、弱小枝、その他忌み枝を剪定し、大株にならないように樹形を整えます。

肥料

花後の剪定を行う頃から液肥を与え、春になって新梢が伸長を始める頃から

植え替え

灌水した水の浸透が悪くなったら、春先に新芽が伸び始める頃に植え替えを行います。生育旺盛な若い株は毎年植え替えするのがよいでしょう。アザレアは酸性土を好みますので鹿沼土やピートモスを多く含む用土を使います。



◆アマリリスの植え替え

1) 休眠株の植え替え

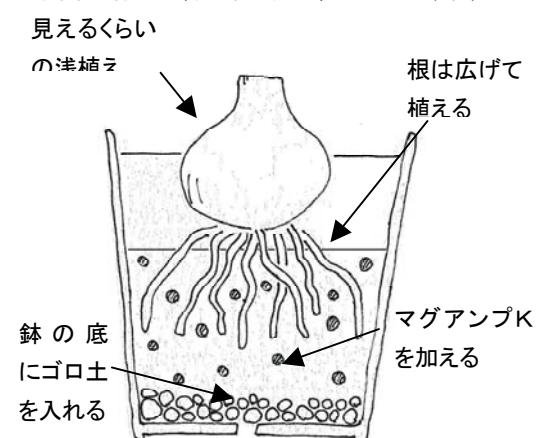
前年の春に開花の終わった株は球根を肥大させるため秋まで十分肥培し、10月に入室し徐々に水やりを控えて乾燥させ、葉を株元で切り鉢ごと或いは掘りあげてバーミキーライトなどに埋めて、5~10°Cを保てる場所で休眠させます。十分休眠させた球根は、植え替えて水やりと加温球根の育成生育を開始し、一定の期間で開花します。

【植え替え時期】

暖かい居間などで管理する場合、開花まで約35~40日かかります。2月上旬に植え替えると3月10日頃に花が見られます。

【鉢・用土など】

使用する鉢は、球根の径の2倍の普通タイプのプラ鉢が適します。例えば、球根の直径が10cmの大型球は7号鉢（径21cm）、7cmの中型球は5号鉢（径15cm）が一般的です。用土の条件は水はけのよいことで、赤玉土4、腐葉土（またはピートモス）4、火山れき（軽石）2の割合で混合し、その用土10当たり緩効性化成肥料（マグアンプK）約4gを元肥として加えます。



【植え替え方法】

植え方は、球根を鉢から抜いて古い土を落とし、根は傷んでいる部分を除去します。

鉢の底にゴロ土を敷き、そこに元肥を加えた土を入れ、次いで鉢の深さの3分の2ぐらい土を入れ、根を広げるようにして置き、さらに球根のまわりに土を入れながら、球根の肩が見える程度に浅植えします。

最後に水をたっぷり与えて植え替え完了です。（イラスト参照）

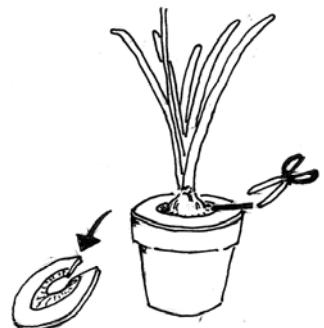
【植え替え後の当面の管理】

暖かい室内的日当たりのよいところに置き、水やりは鉢土の表面が乾き始めたらたっぷり与えます。

肥料は薄い液肥を2週間に1回与えます。

2)蓋付きプラポット(鉢)株の花後の植え替え

昨年末から1月ころにかけて購入したアマリリスの蓋付きプラ鉢植えの株は、花が咲き終わった直後が来年の開花に向かうスタートラインですので、植え替えて管理を十分行います。蓋付きプラ鉢は、花を咲かせるためだけのものなので、2月～3月にかけて一日も早く普通鉢に植え替えます。



【植え替え方法】

① 花が終わった花茎を株元で切り取り、葉は球根を肥らせるので大切にします。

② プラポットの蓋を切り取りはずし、鉢から株を抜き取ります。

根鉢のピートモスの中に白い根が回っているので、傷めないようにしながら古根を落とします。

③ 植え方は、植え替え後の管理は、休眠株の場合に準じます。

緑の相談 Q&A

葉脈「しおり」を作りたい

Q 葉っぱの中身が透けて見える「しおり」を見ました。自分で作った、とのことでしたが、私も作ってみたいと思います。難しいのでしょうか、教えていただければ嬉しいのですが……。（豊平区 Mさん）

A 植物の種類によって葉脈は様々で個性的ですね。葉は根から供給される水や養分からデンプンを製造（光合成）する大切な器官です。光合成で作られたデンプンは糖分に変えられ、葉脈を通って各部に運ばれます。葉脈は他の部分より丈夫に出来ておりアルカリ液で葉肉を溶かすと葉脈だけが残ります。

葉脈標本に適する葉の種類

ヒイラギ、サザンカ、エゴノキ、アセビ、ミカン、イチョウ、ヘデラなど

（ゴムノキ、コナラ、ヤマザクラ、アジサイなどは葉面に粘液が出て薬品が効き難い、葉脈が弱い、葉肉と葉脈の堅さに差がなく一緒に溶けてしまうなど失敗しやすいので、予め葉の粘液を取る、処理時間を調整するなど工夫が必要です）

準備するもの

◆水酸化ナトリウム（苛性ソーダ）（薬局で入手） ◆鍋（ステンレス、ホーロー製） ◆漂白剤（洗濯用塩素系） ◆

歯ブラシ

◆ピンセット◆染料（食紅、木綿用染料など） ◆ラミネートフィルムや透明粘着シート◆

葉脈標本（しおり）作り

1 水酸化ナトリウム水溶液を作ります（水酸化ナトリウム100gを1000ccの水に混ぜる）

・【注意！】水酸化ナトリウムが手や衣服に直接付かないよう注意しましょう。

2 生葉を水酸化ナトリウム水溶液に入れ20分ほど加熱（とろ火）します。

3 葉が液中に沈んで内部まで濡れたようになれば取りだします。

4 液から取り出し食酢で中和し、歯ブラシで裏表を軽く叩いて水洗いを繰り返し葉脈だ

5 塩素系漂白剤で数時間漂白します。（染織する場合、必要に応じ）

6 染料などで着色（好みで）し、直ちにアイロンを用いて乾燥します。

7 ラミネートフィルムで封入します。

8 使い終わったナトリウム水溶液は食酢で中和して捨てます。

